令和５年度　事業報告書

自　令和５年 ４月 １日

至　令和６年３月 31 日

公益財団法人　性の健康医学財団

令和５年度　事業報告書

公益財団法人　性の健康医学財団

【事業概要】

令和５年度は、財団創立１０２年目の年であり、令和３年 10 月 22 日に実施した百周年記念式典の後、令和４年度に創立百周年記念誌を制作、財団の意義と歴史をとりまとめ、関係各所に配布し、財団百周年記念事業を無事終えることができた。

また従来から実施している各種普及啓発活動として、中高等学校へ赴いての性感染症出前講座、Ｅメールによる性の健康相談、性感染症予防活動に従事する医師、助産師、保健師、看護師、医療スタッフおよび学校で性教育を担当する養護教諭ならびにカウンセラー等を対象とした性感染症最新講座などの様々な事業を実施した。

１　第 23 回「性の健康週間」事業の実施

令和 5 年 11 月 25 日から 12 月 1 日までの 1 週間を「第 23 回　性の健康週間」として位置付けホームページ等で周知した。

2　性の健康相談事業

Ｅメールによる性の健康相談

性に関する様々な相談メールに対し、適切な助言・指導を行った。

令和５年度の相談メールは、２０９件。

3　青少年の性感染症予防のための情報提供事業

若者世代へ性感染症予防に関する情報を提供することを目的に、ホームページを随時更新し情報提供を行った。

4　その他の普及啓発活動

（１）機関誌「性の健康」の発刊・配布

機関誌第２２巻を第１号から第４号まで発刊し、会員及び関係機関等に配布した。

なお夏号は配布先を拡大し、全国の中学校・高等学校へも配布した。

（２）性の健康医学に関するホームページ

性の健康情報に関する財団のホームページにて、医師、保健師等医療関係者、養護教諭等学校関係者、一般市民、製薬会社、郵送検査事業等関連事業者それぞれに益する最新情報等を公開した。

（３）第１５回臨床現場のための性感染症最新講座の開催

テーマ：感染症と差別・偏見

医師、医療従事者、教育関係者、その他関係者を対象に、最新の知見や情報を提供し、感染症に関する予防啓発のため講座を開催した。

開催日時：令和６年３月１７日（日）１２時３０分より１６時２０分まで

階催場所；国立ハンセン病資料館　映像ホール

受講者数：５０名

講演内容：

開会挨拶・講演１「花柳病予防会の淵源と初代理事長　土肥慶蔵」
公益財団法人　性の健康医学財団　理事長　北 村　唯　一

講演２「新型コロナウイルス初期における差別・偏見」
国立国際医療研究センター　国際感染症センター　センター長
大　曲　貴　夫

講演３「ハンセン病患者の差別・偏見」
国立療養所多磨全生園入所者

講演４「ハンセン病療養所の歴史」
国立療養所多磨全生園園長　鵜　飼　克　明

講演５　「ハンセン病資料館の見所紹介」
国立ハンセン病資料館学芸員　木　村　哲　也

見学実習　「ハンセン病資料館見学」

閉会挨拶　公益財団法人　性の健康医学財団　常務理事
国立療養所多磨全生園特命副園長　岡　　慎　一

（４）第１７回医療従事者と養護教諭のため性の健康基礎講座の開催

上記（3）事業と合同実施とした。

（５）性の健康カウンセラー講座の開催

助産師、保健師、看護師、医療スタッフ、養護教諭など性の健康活動に従事する者を対象とした医療従事者と養護教諭の資質の向上と相談技能の取得を目的として講座を開催した。

今年度は、WEB と対面を組み合わせて開催した。

受講者数：（基礎）２４名　（応用）２２名

（６）中・高校生等を対象とした性感染症（ＳＴＩ・ＳＴＤ）講座

全国の中・高等学校生等を対象として、教育現場に赴き正しい性感染症の予防と知識を講義した。

実施校：

宮城県白石工業高等学校 88 名

（７）全国保健師性感染症予防対策研修会

わが国の性感染症の感染率は、若い世代を中心に高い現状が続いているため、保健師や助産師等が性感染症の予防対策について、地域の住民や関係者に正しい知識を提供することが重要となっている。

このため、保健師や助産師等に対して、性感染症に関する研修を行い、性感染症の予防対策を強化することを目的として実施した。

令和５年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり実績無し。

東京都主催のエイズフェス 2023

2023 年 12 月 9 日（土）12:00-16:00

中池袋公園・Hareza 池袋パークプラザ

アニメイト前にて展示ブースを出展した。

（８）行政における HIV 検査の現状と性感染症対策について

日時： 9 月 14 日(木) 15：00-16：４５

開催方法： リアルタイム Zoom 開催

９月末までオンデマンド配信(意見交換を除く)

日本性感染症学会 関東甲信越支部総会・学術集会

〒141-8648 東京都品川区東五反田 4-1-17

東京医療保健大学 医療保健学部内 渡會(わたらい)研究室

●主催 一般社団法人 日本性感染症学会 関東甲信越支部

●共催 公益財団法人 性の健康医学財団

参加費 無料を実施した。

5　調査研究事業

（１）「男性性器の HPV 年齢層別検出率の継続調査」

子宮頸がんの発生原因であるヒト・パピローマウイルス（HPV）については、一般健常女性の HPV 浸淫率はある程度明らかになっている。一方、HPV の保菌者ともいえる男性に関して年齢層別 HPV 罹患率は、未だ詳細が不明である。その男性の HPV 罹患率及びその型を調査することは学術的にも非常に意義があるため、調査を継続実施した。

（２）「女性性器からの HPV 自己採取検体郵送調査による全国調査」

子宮頸がんの早期発見、早期治療のための自己採取検体のＨＰＶの感染状況を調査し、さらに経年的に縦断調査として感染状況を調査した。

（３）「妊産婦に潜在する性感染症罹患率実態調査」

最近の性感染症は、臨床症状がなく無自覚のうちに一般市民の中にかなり広がっていると推測される、そこで日本産婦人科医会の協力を得て妊産婦の性感染症の実態検査を行い、調査し難い一般市民女子人口内に、広く潜在する性感染症疫学的実態を明らかにすべく.今年度は「妊娠中の梅毒感染に関する調査」として実施した。

（４）残存腟断端からの HPV 採取調査

子宮全摘後の腟に高リスク型 HPV が残存しているか否かを調査した。
東峯婦人クリニック、同愛記念病院の協力のもと実施。

6　性の健康医学研究推進のための助成

（１）　性の健康医学財団賞

財団創立 90 周年の記念事業の一環として、性感染症を始め性の健康を損なう諸要因を医学的に究明して性に関する医学技術の発展を図るため、性の健康医学財団賞を設けた。

本賞の研究課題は、性の健康分野、泌尿器科分野、産婦人科分野の三分野それぞれの委員会において厳正な審査のうえ、理事長が決定するものであり、第 13 回目の令和５年度受賞者は以下の者と決定、10 月 22 日学士会館にて実施された授賞式において、表彰状及び金一封を添え表彰した。

令和５年度性の健康医学財団賞受賞者（肩書は受賞時）

○産婦人科学分野（1 論文）

1　受賞論文　Enhancement of Rubella Virus Infection in Immortalized Humam First-Trimester Trophoblasts Under Low-Glucose Stress ConditionsFront Microbiol. 2022 jul 8;13:904189.doi:10.3389/fmicb.2022.904189.
PMID: 35875557;PMCID: PMC9304883.

２　氏　　名 トリン　ズイ　クアン
Trinh　Duy　Quang
日本大学医学部病態病理学系微生物学分野助教

○性の健康分野（１論文）

１　受賞論文 Identification of asymptomatic Entamoeba histolytica infection by a serological screening test: A cross-sectional study of an HIV-negative men who have sex with men cohort in Japan.
PLOS Neg Trop Dis 2022 Apr 25;16(4): e0009793
)

２　氏　名　やながわ　やすあき
柳　川　　泰　昭
国立国際医療研究センター　エイズ治療・研究開発センター

○泌尿器科学分野　　（該当論文無）
○特別賞　Longevity 賞

受賞者　木　村　好　秀　評議員

（２）日本性感染症学会との連携事業の一環として、学術奨励賞受賞者へ研究助成金（10 万円）を交付した。

7　役員会及び評議員会等の開催

（１）理事会ならびに評議員会
定款等に定める諸規則により必要に応じ実施した。

（２）監事監査
事業報告及び収支決算の監事監査を実施。

（３）常任理事会
事業実施に係る諸課題等について適宜実施。（年間４回実施）

令和５年度事業報告書附属明細書の作成について

令和５年度事業報告に関して「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第３４条第３項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないため作成しておりません。

令和６年５月
公益財団法人　性の健康医学財団